



インターネットを使ったシステム開発を手掛ける「有限会社奥進システム」

(大阪市中央区) は今年7月、精神・発達障がいのが就労を定着させるための支援システムを開発、提供を始めた。「皆が幸せになれる社会を作りたい」と語る奥脳学代表に聞いた。

——起業のきっかけは？

奥脳代表 当初はソフトウェアの技術者として、勤めていました。そんななか、会社の枠にとられないソフト開発に取り組みたくて、独立を考え始めました。実はそのころ、単身赴任で家族と別れて暮らしていて、そのことにも

疑問を持っていました。ネット普及で、どこ場所でも仕事ができると思いました。ウェブのプロデューサーとして独立を模索し、個人事業では限界もあるので、2000年に会社を立ち上げました。

——どんな業務ですか。



奥脳代表 中小企業向けのシステム開発です。顧客は50社ほど。業務管理、在庫管理、受発注、顧客管理などの社内システムが中心で、ショッピングサイトを運営する通販システムも扱っています。

——最近、精神・発達障がい者の就労システムを開発されました。

奥脳代表 「SPIS」とも、「過集中」という状態と呼ばれるシステムで、7月23日から提供を始めました。精神障がい者の就労希望は増えています。しかし、身体・知的障がい者に比べて、働く場を見つけるチャンスが少ないのが実情です。これは企業側

## 障がい者就労支援を展開

奥進システム 奥脳学代表

## 「共に幸せになれる社会を」

に、配慮や体調管理のノウハウが不足しているからです。——具体的には、どういうことですか？

奥脳代表 身体的な障がいの調子が良いか悪いかは、見ればわかります。ところが、精神的な障がいは見ただけではわかりません。例えば、ごく仕事をしているように

るようになっています。——どんな理由ですか？

奥脳代表 会社員時代、優秀な女性が家庭と仕事を両立できずに、職場を去っていくのを目の当たりにし、「もったいないなあ」と思いました。ネットの普及で場所、時間を固定しない働き方が実現するはず。そして会社を立ち上げたところ、一人の障がいのある人と出会いました。車椅子に乗った彼と、「一緒に働く」ということはどういうことか」を問いかねながら、共に働ける環境を作り上げていきました。

——無料ネット「うえぶサポ」を展開されています。

奥脳代表 「サポ」は「サポートブック」をインターネットで作成・保存・共有するサービスです。「サポ」は「サポートブック」とは、自閉症・発達障がいなどの方が、初めて接する人やサポートしてくれる人たちに、特性や症状を伝えるため、それらの情報を記録しておくもので

### 有限会社 奥進システム

本社 大阪市中央区錦屋町2の2の4  
イチクラビル4階  
2000年2月  
300万円  
7人  
http://www.okushin.co.jp

設立金数P  
従業員数H

#### 会社案内

す。いつでも、誰からでも同じ支援を受けることができ、内容の変更も簡単で最新の情報を発信できます。

——これからの会社像を教えてください。

奥脳代表 会社の基本理念は「私たちが、私たちに関わる人たちが、とてもしあわせと思える社会づくりをめざします」です。このように、皆が共に幸せになれる社会づくりを目指していきたいと思っています。